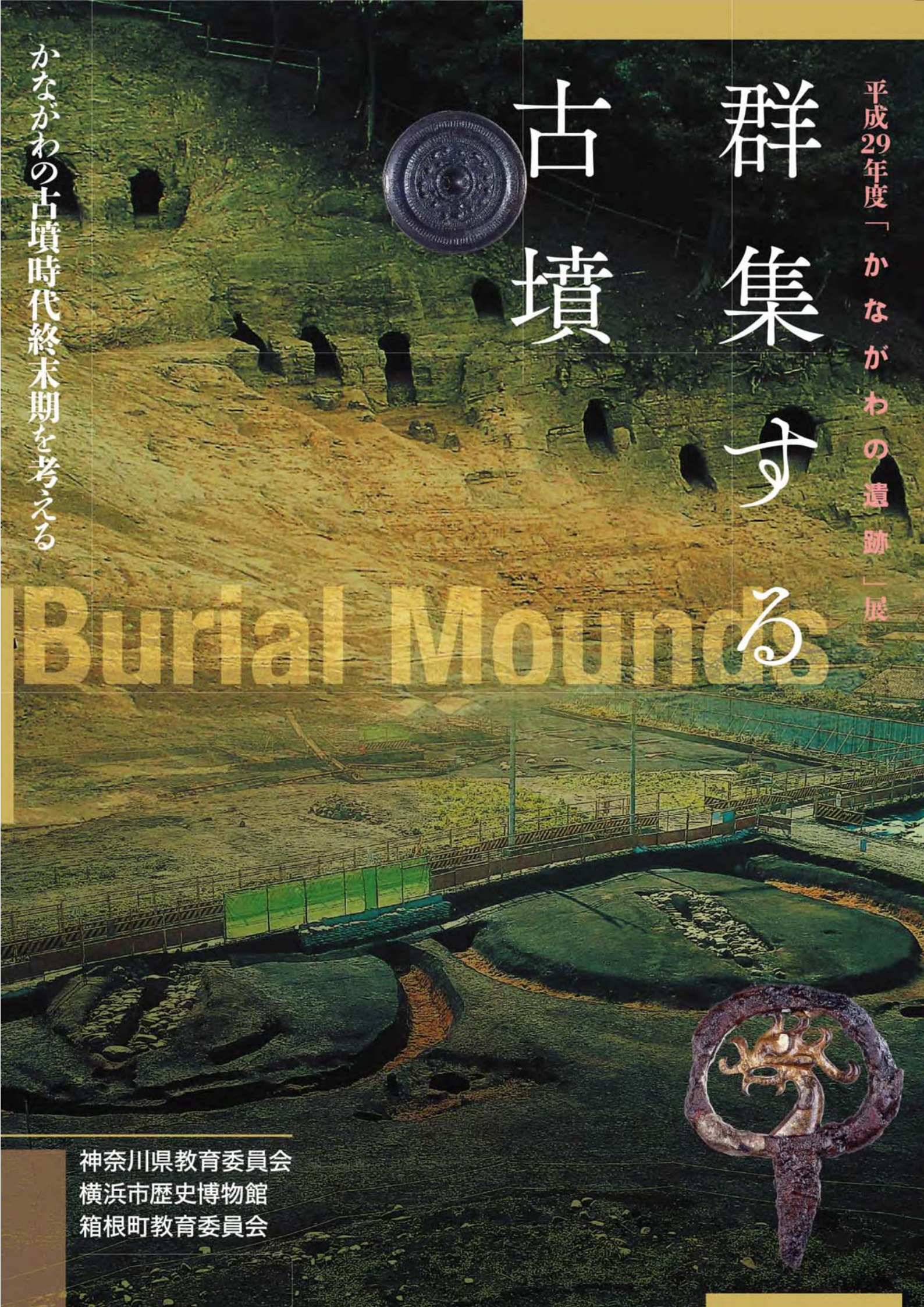
平成29年度「かながわの遺跡」展

群集する古墳

Burial Mounds

かながわの古墳時代終末期を考える



神奈川県教育委員会
横浜市歴史博物館
箱根町教育委員会

ごあいさつ

日本の歴史では、有力者（豪族）たちが自らの権威の象徴として墓造りに夢中になっていた、およそ３世紀半ば～７世紀頃までの時代を「古墳時代」として区分しています。

この墓（古墳）は、時代の流れの中で姿を変えていき、やがて有力者たちは権威の象徴を墓以外のものに求めるようになり、古墳もその役目を終えることとなります。

本展覧会では、前方後円墳築造の停止に呼応する形で、爆発的に造られ始める小規模な「群集する古墳」を取り上げ、古墳が造られなくなる（古墳が消えていく）までの様相や特色などを発掘調査の成果や出土品から探ってみたいと思います。

この展覧会を通して、郷土神奈川の歴史や埋蔵文化財への理解を深めていただければ幸いです。

平成 29 年 11 月

神奈川県教育委員会
横浜市歴史博物館
箱根町教育委員会

目　次

Ⅰ　群集墳とは何か …… 1
　1）古墳群と群集墳 …… 1
　　コラム「後期・終末期群集墳」…… 1
　2）高塚古墳と横穴墓 …… 2
　　コラム「横穴墓」 …… 2
　3）前方後円墳の終焉と群集墳 … 3
Ⅱ　群集墳の特質 …… 5
　1）埋葬施設 …… 5
　2）副葬品と被葬者の階層構造 … 7
　3）埋葬方法と埋葬儀礼 …… 9
　　コラム「横穴式墓室と葬法」 …… 10
Ⅲ　群集墳の諸相 …… 11
　　コラム「古墳時代終末期のかながわ」 …… 11
　1）南武蔵地域の様相 …… 12
　　a）南武蔵地域における最後の前方後円墳 …… 12
　　b）南武蔵地域における後期・終末期の高塚古墳 …… 14
　　c）南武蔵地域における後期・終末期の横穴墓 …… 15
　2）相模地域の様相 …… 17
　　a）相模地域における最後の前方後円墳 …… 17
　　b）相模地域（県西部）における後期・終末期の高塚古墳と横穴墓 … 18
　　c）相模地域（県央部）における後期・終末期の高塚古墳と横穴墓 … 21
　　d）相模地域（鎌倉～三浦半島）における後期・終末期の高塚古墳と横穴墓 …… 25
Ⅳ　群集墳の終焉 …… 26
　1）造墓の停止と造営の継続 …… 26
　2）律令制成立前夜のかながわ …… 27

例　言

・本冊子は、平成 29 年度「かながわの遺跡」展『群集する古墳～かながわの古墳時代終末期を考える』の展示図録です。
・本展覧会は、神奈川県教育委員会 (埋蔵文化財センター)・横浜市歴史博物館・箱根町教育委員会の共同主催によるものです。
・展示会場と会期は、次のとおりです。
　(横浜会場) 横浜市歴史博物館
　　平成 29 年 11 月 25 日 (土) ～平成 30 年 1 月 8 日 (月・祝)
　　休館日は、毎週月曜日 (ただし 1 月 8 日は開館)、年末年始 (12 月 28 日～ 1 月 4 日)
　(箱根会場) 箱根町立郷土資料館
　　平成 30 年 1 月 18 日 (木) ～平成 30 年 2 月 18 日 (日)
　　休館日は、毎週水曜日、 1 月 29 日
・本冊子に掲載した出土品の所蔵・保管先については、県教育委員会所蔵のものは略しました。また、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターについては「横浜市埋蔵文化財センター」と略しました。

表紙写真：小田原市羽根尾横穴墓群Ｃ群、厚木市桜樹古墳群
　　伊勢原市登尾山古墳出土五獣形鏡、南足柄市黄金塚古墳出土環頭大刀柄頭

表紙デザイン：高橋健介　　※裏表紙・挿図作成・編集は埋蔵文化財センターが行いました。

Ⅰ　群集墳とは何か

「古墳」は、有力者たちの墓であるとともに、他者へ視覚的に見せつけることのできる権威の象徴物でした。ところが、階層社会の指標である古墳は、時代の流れの中でその姿を変えていきます。

古墳を代表する前方後円形の墳墓が造られなくなり、替わって小規模な群集墳（古墳・横穴墓）が多数造られる現象は、単にそこへ埋葬される人たちが増えたということだけではなく、「古墳」という墓による結びつきをもっていた社会が終わりへと向かう序章でもあったと言えましょう。

1）古墳群と群集墳

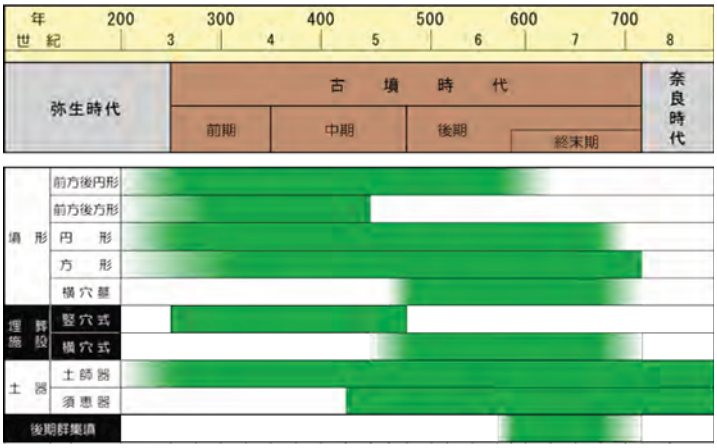
ある一定の範囲（墓域）の中に造られた古墳のまとまりを「古墳群」と呼びますが、そこには古墳を築いた集団の構成や盛衰が反映されていると考えられます。

古墳群には、長期にわたり古墳が造られ続けたことにより群を形成しているものと、多数の小規模な古墳が短期間に密集して造られたものが見られ、後者を「群集墳」と呼んでいます。さらに群集墳の中でも古墳時代後期～終末期の時期にかけて爆発的に築造されたものを「後期・終末期群集墳」として区別しています。

群集墳は、わずか数基で小さな群を形成しているものから、複数基のまとまりが密集して大きな群を形成するものまで見られます。墳丘をもつ高塚古墳の場合は多くが円墳で構成されるほか、方墳や前方後円墳などが含まれることもあります。

1. 秦野市桜土手古墳群

2. 横浜市青葉区熊ヶ谷横穴墓群



コラム「後期・終末期群集墳」

日本の歴史の中では、３世紀半ば～７世紀末までの間が「古墳時代（一部は飛鳥時代）」として区分されています。

古墳時代は、さらに前期・中期・後期・終末期に区分され、年代的には後期が５世紀末～６世紀末頃に、終末期が６世紀末～７世紀代頃に比定されています。

群集墳は、５世紀代に見られる「初期群集墳」と呼ばれるものを除けば、大半は「後期・終末期群集墳」に該当します。とくに、東日本では６世紀末頃から７世紀半ばにかけて爆発的に造られるようになり、一部は８世紀にかかる時期まで墓として使われ続けていますが、古墳そのものの築造については、おそらく７世紀代にはほぼ終了していたと考えられます。

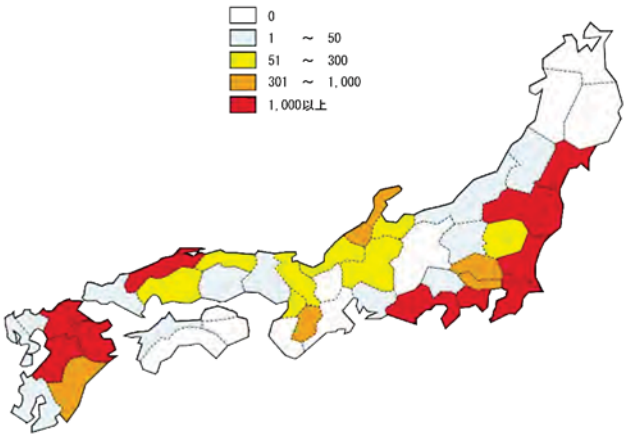
古墳：石室を盛土で覆う

横穴墓：崖面に直接墓室を掘る

3. 古墳と横穴墓の構造

4. 横穴式石室の墓前域石積施設（秦野市桜土手古墳群）

5. 横穴墓の墓前域石積施設（伊勢原市下尾崎横穴墓群）



6. 列島における横穴墓の分布と数

2）高塚古墳と横穴墓

「古墳」とは文字どおり「土を盛った（古い）塚」を指しますが、「群集墳」と呼ばれる古墳の中には、この土を盛った塚（高塚）だけでなく、崖の斜面に横穴を掘った墓も見られます。前者を「（高塚）古墳」、後者を「横穴墓」とそれぞれ呼んでいます。横穴墓の構造は、古墳の埋葬施設（横穴式石室）を崖面に掘り込んだものをイメージすればわかりやすいと思います。

高塚古墳と横穴墓の関係については、墳丘や主体部となる横穴式石室を構築するための労力という点では、横穴墓の方が高塚古墳よりも下位に見られがちですが、出土する副葬品の内容を比べても両者に大きな差は見られません。また、横穴式石室の構造に影響を受けたと考えられる横穴墓も存在しており、双方の集団もしくは造墓に関わる工人間で交流があったと思われます。高塚古墳と横穴墓の違いは、墓を造った集団の違いを反映しているとも考えられ、同一丘陵の尾根上と斜面にそれぞれ墓域を構築している状況は、横穴墓を造営した集団を統括する首長（高塚古墳の被葬者）の姿を想起させるものです。

コラム「横穴墓」

横穴墓は、丘陵の斜面に横穴を掘り込み、墓室（埋葬空間）を造り出したもので、５世紀代に北部九州で出現し、東日本では古墳時代後期・終末期に多く認められる古墳の一形態です。また、複数基からなる群を形成していることから、群集墳の範疇に含めて考えられています。

明治時代には、住居か墓かという横穴の性格を巡る論争もありましたが、人骨の出土や高塚古墳と同様に副葬品の存在が認められるため、墓として造られた（機能した）ことが明らかとなりました。

横穴墓の分布を全国的に見ると、地域的な偏りはあるものの内陸部には少なく、沿岸部を中心に多くが展開しています。海に面したかながわは全国的にも横穴墓が密集して造られた地域の一つであり、おそらく数千基に及ぶ数が造られたと推測されます。

なお、「横穴墓」の用語について、現在「よこあなぼ」「おうけつぼ」という二通りの読みがありますが、竪穴（たてあな）に対する言葉は横穴（よこあな）であり、また考古学史の中では「ヨコアナ」と呼ばれてきたことを踏まえれば、横穴（構造）＋墓（機能）で「よこあなぼ」という読み方が適当なのではないかと思われます。

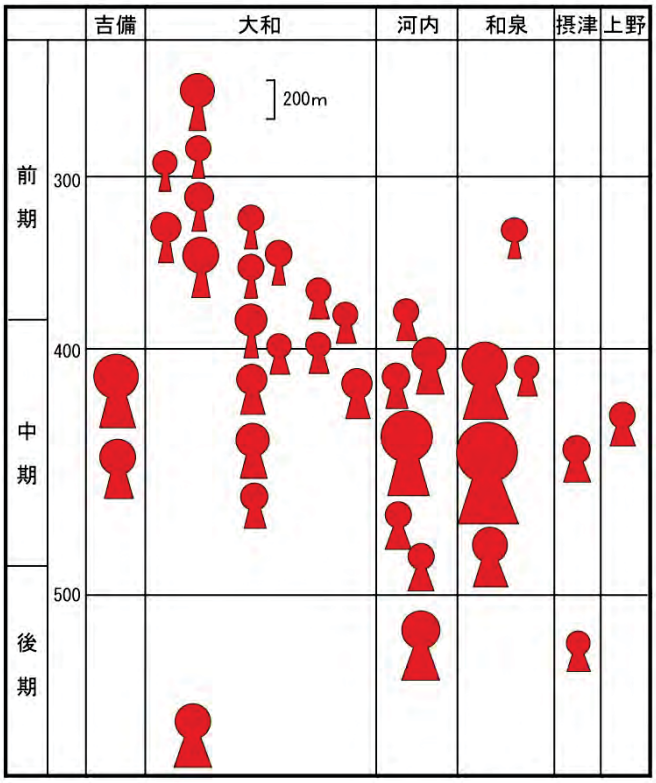
3）前方後円墳の終焉（しゅうえん）と群集墳

古墳の代表格と言えば、鍵穴の形をした「前方後円墳」です。前方後円形の墳墓は、古墳の出現する時期（３世紀半ば）から見られ、６世紀末ないし７世紀初頭頃にかけて東北南部から鹿児島までの範囲に築造されています。

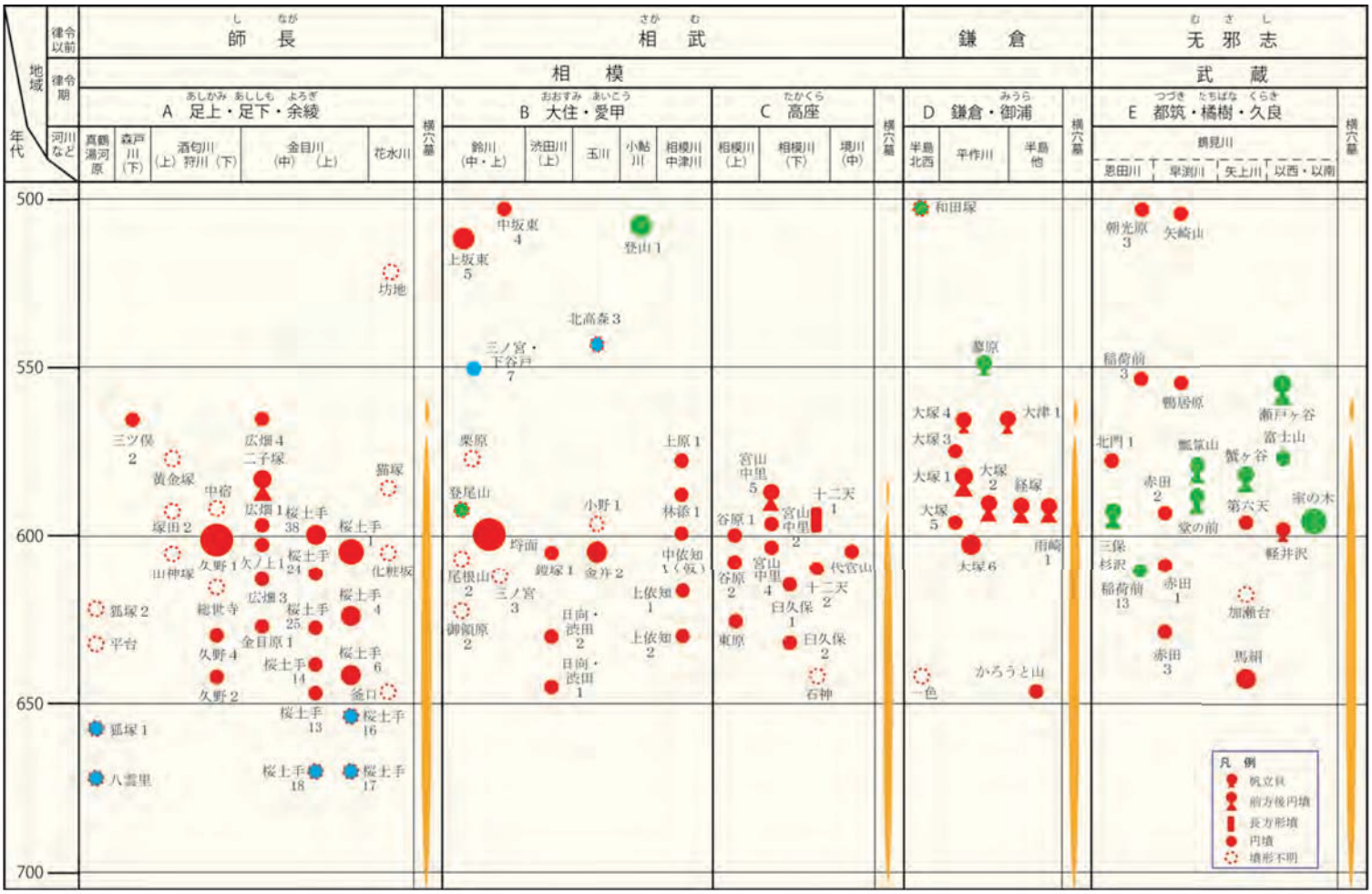
地域によって多少の時間差はありますが、前方後円墳の築造停止については全国的に見られる動きであり、これに取って替わるように小規模な高塚古墳や横穴墓が爆発的に造られ始めます。

日本列島に造られた古墳の約９割が群集墳で占められるという特異な様相からは、群集墳を構成する高塚古墳と横穴墓が如何に多く造られていたかということがわかります。

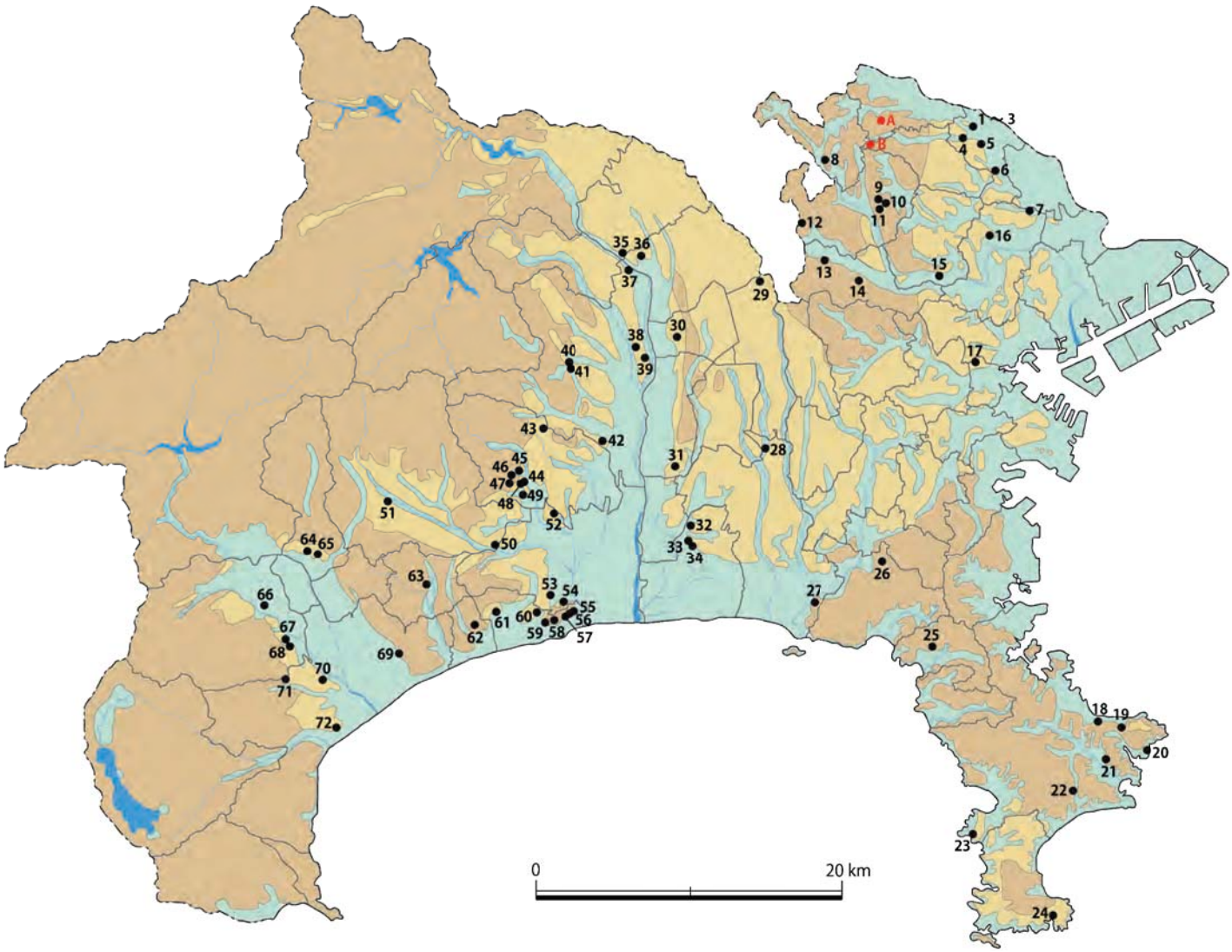
また、この現象は古墳に葬られる（被葬者）階層の拡大とともに、前方後円墳を中心とした「古墳」という墳墓によって序列を形成してきた当時の社会構造に変化をもたらす動きであったと考えられます。



7. 日本列島における大型前方後円墳の分布



8. かながわの古墳時代後期・終末期編年表



9. 展示遺跡一覧

1．川崎市高津区　日向横穴墓群　2．川崎市高津区　久地西前田横穴墓群　3．川崎市高津区　久地浄元寺裏横穴墓群　4．川崎市高津区　溝口西横穴墓群　5．川崎市高津区　久本横穴墓群　6．川崎市高津区　間際根横穴墓群　7．川崎市中原区　井田伊勢宮金堀横穴墓群　8．川崎市麻生区　下麻生古墳群　9．横浜市青葉区　大場第二地区横穴墓群　10．横浜市青葉区　赤田古墳群・赤田横穴墓群　11．横浜市青葉区　市ヶ尾第二地区 18 街区横穴墓群　12．横浜市青葉区　熊ヶ谷横穴墓群　13．横浜市緑区　北門古墳群　14．横浜市緑区　三保杉沢古墳　15．横浜市都筑区　東方横穴墓群　16．横浜市港北区　箕輪洞谷横穴墓群　17．横浜市西区　軽井沢古墳　18．横須賀市　信楽寺横穴墓群　19．横須賀市　高尾横穴墓群　20．横須賀市　鳥ヶ崎横穴墓群　21．横須賀市　吉井城山横穴墓群　22．横須賀市　かろうと山古墳　23．横須賀市　長浜横穴墓群　24．三浦市　江奈横穴墓群　25．逗子市　久木５丁目横穴墓群　26．鎌倉市　岩瀬上耕地横穴墓群　27．藤沢市　川名新林右 (西斜面) 横穴墓群　28．藤沢市　代官山横穴墓群　29．大和市　浅間神社西横穴墓群　30．座間市　梨の木坂横穴墓群　31．海老名市　本郷遺跡　32．茅ヶ崎市　臼久保横穴墓群　33．茅ヶ崎市　篠山横穴墓群　34．茅ヶ崎市　篠谷横穴墓群　35．相模原市中央区　谷原古墳群　36．相模原市南区　東原古墳　37．厚木市　上依知古墳群　38．厚木市　林添古墳群　39．厚木市　桜樹古墳群、中林横穴墓群　40．厚木市　辻ノ上古墳群　41．厚木市　衣紋原古墳群　42．厚木市　大厳寺横穴墓　43．伊勢原市　日向・渋田古墳群　44．伊勢原市　らちめん古墳　45．伊勢原市　下尾崎横穴墓群　46．伊勢原市　上栗原横穴墓群　47．伊勢原市　登尾山古墳　48．伊勢原市　栗原古墳　49．伊勢原市　三ノ宮古墳群　50．秦野市　二子塚古墳　51．秦野市　桜土手古墳群　52．平塚市　城山横穴墓群　53．平塚市　万田熊之台横穴墓群　54．平塚市　高根横穴墓群　55．大磯町　化粧坂古墳　56．大磯町　前谷原横穴墓群　57．大磯町　釜口古墳　58．大磯町　坂田山南横穴墓群　59．大磯町　北中尾横穴墓群　60．大磯町　清水北横穴墓群　61．大磯町　下田横穴墓群　62．二宮町　諏訪脇横穴墓群　63．中井町　比奈窪横穴墓群　64．松田町　からさわ横穴墓群　65．松田町　かなんざわ横穴墓群　66．南足柄市　塚田２号墳 67．南足柄市　塚原山神塚古墳　68．南足柄市　岩原黄金塚古墳　69．小田原市　弁天山（田島）横穴墓群　70．小田原市　久野２号墳　71．小田原市　総世寺裏古墳　72．小田原市　天神山１号墳

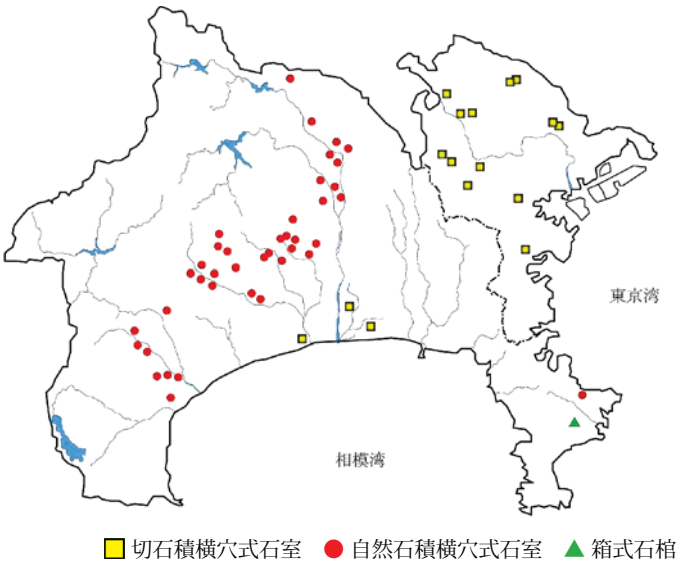
A．川崎市多摩区　生田古墓群 生田 8601 番地古墓　B．川崎市宮前区　稗原古墓群 A 地点古墓

Ⅱ　群集墳の特質

かながわにおける群集墳は、小規模な墳丘をもつ高塚古墳と崖面に構築される横穴墓で構成され、それぞれの墓は構造を異にしている反面、副葬品などでは違いとともに共通点なども見られます。両者を構成する各要素の類似と相違は、当時の墓をめぐる社会相や政治相を反映していると考えられます。

11. 自然石積横穴式石室（秦野市桜土手古墳群）

12. 切石積横穴式石室（横浜市青葉区赤田古墳群）



10. 横穴式石室をもつ古墳の分布

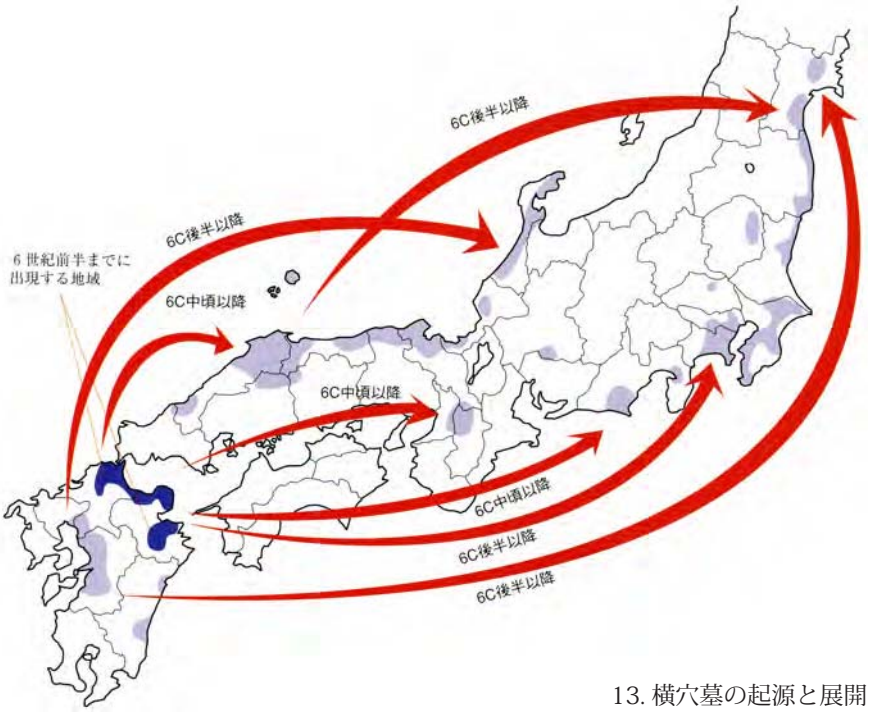
1）埋葬施設

群集墳に見られる埋葬施設としては、高塚古墳に採用された横穴式石室が主体となりますが、かながわでは墳丘を持たず埋葬施設に特化した横穴墓の方が圧倒的多数を占めています。

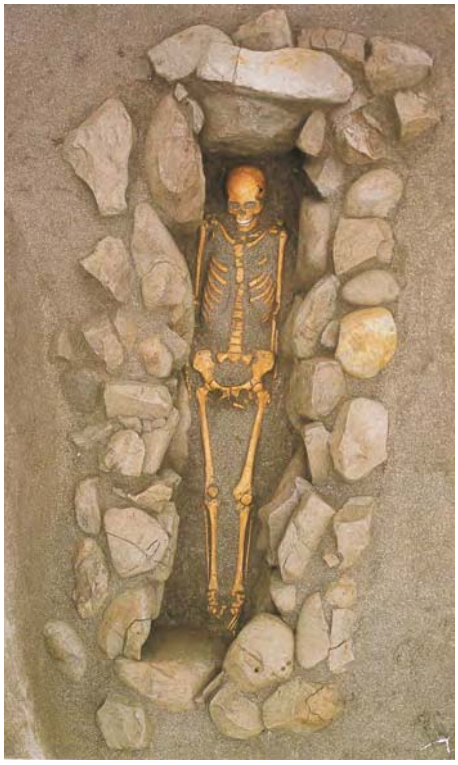
かながわの場合、横穴式石室を有する高塚古墳（横穴式石室墳）の登場は、おおよそ６世紀後半代がその初源と考えられます。一部、伊勢原市域で６世紀半ば頃に遡（さかのぼ）ると報告された横穴式石室墳も見られますが、かながわ全体を見渡した時に、突出した存在となっているだけに、その年代比定については異論もあります。横穴式石室は自然石積（しぜんせき）のものと切石積（きりいし）の二種類が見られますが、両者が混在して分布する状況はほとんど見られず、構築材（石材）の選択に地理的な原因が作用していた可能性が考えられます。

かながわにおける横穴墓の出現は、横穴式石室墳と時期的に大差は見られませんが、その構造には他地域の影響が認められるとともに、東海地方を介（かい）しての伝播（でんぱ）が想定されています。また、横穴式石室の影響を受けたと考えられる構造の横穴墓も確認できます。

その他の埋葬施設としては、箱式石棺（はこしきせきかん）や厳密な時期の特定ができていないものの小石室（しょうせきしつ）や石棺墓（せきかんぼ）など、古墳の範疇には含められないものも存在しています。小石室の中には高塚古墳との位置関係から、従属的なものと判断される事例もあり、規模的に伸展葬（しんてんそう）による埋葬ができない小石室などは、改葬墓（かいそうぼ）として構築された可能性も考えられます。

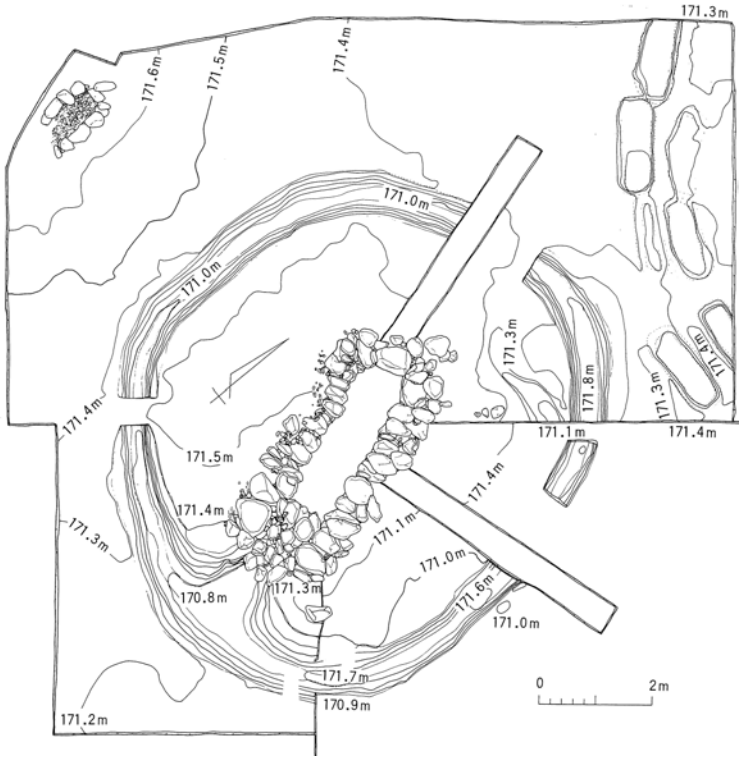


13. 横穴墓の起源と展開



14. 石棺墓（鎌倉市長谷小路周辺遺跡）

15. 小石室（海老名市河原口坊中遺跡）



16. 古墳と小石室（秦野市桜土手古墳群）

17. 竪穴系小石室（相模原市中央区谷原古墳群）

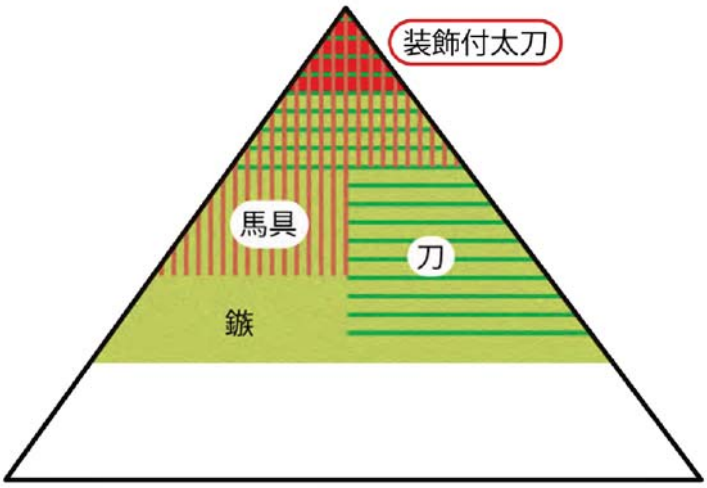
18. 箱式石棺（横須賀市かろうと山古墳）

2）副葬品と被葬者の階層構造

古墳時代後期以降の高塚古墳・横穴墓から出土する副葬品としては、武器・武具・装身具類のほか、土器（須恵器・土師器）などがあります。

副葬品の内容や質・量は、被葬者の集団内部の、さらには集団間における階層差を示していると考えられます。その最も上位に位置するものが装飾付大刀、次が馬具、刀、鏃の順となります。とくに金銅製や金銀装の大刀、馬具などは中央（畿内）からもたらされた「威信財」であり、発見されている数は少ないものの銅鏡や銅鋺などもこれに含まれます。これらを所持している（見せびらかす）ことが、彼らのステイタス（地位・身分の表象）でもあったのでしょう。

威信財の副葬は、高塚古墳だけではなく横穴墓でも認められ、地域における被葬者の地位や階層差を反映していると考えられます。



19. 後期古墳における副葬品の階層性

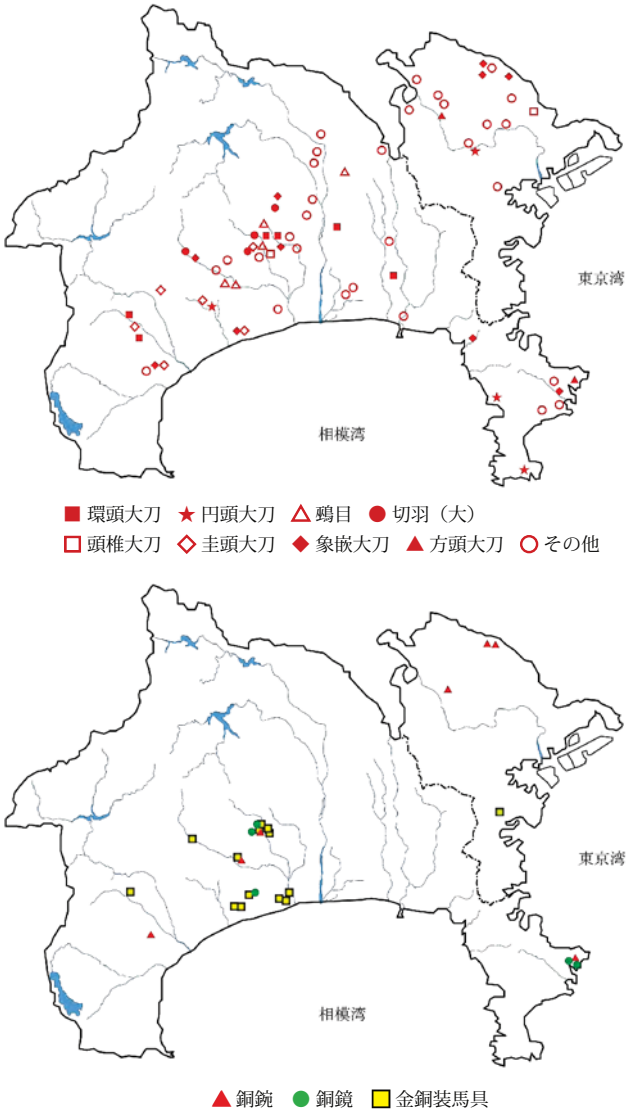
20. 馬具（平塚市高根横穴墓群）　平塚市博物館所蔵

21. 銅鋺（川崎市高津区浄元寺裏横穴墓群）
川崎市教育委員会所蔵

22. 圭頭大刀柄頭（川崎市高津区間際根横穴墓群）
岡コレクション：川崎市市民ミュージアム所蔵

23. 変形四獣鏡（中郡大磯町下田横穴墓群）
大磯町郷土資料館所蔵　大磯町指定文化財

24. 金銅製弭金具（厚木市大厳寺横穴墓）　大厳寺所蔵



25. かながわにおける威信財の分布

群集墳は「古墳」という多分に政治的な産物であるとともに、小規模な墳墓への複数埋葬が行われている点で、これが「家族墓」として認識されてきました。被葬者については、古墳の築造契機となった有力家父長（かふちょう）とその家族が考えられています。

高塚古墳と横穴墓の被葬者の違いは、墓を造った集団の違いによるものとされますが、前者が地域における伝統的な在地の有力者（在地首長）としてとらえられるのに対し、後者は入植や移住により地域で新たに台頭してきた有力者（新興勢力の長）であると考えられています。両者間に見られる階層構造については、集団及び地域の状況によって様々であったことがうかがわれ、高塚古墳や横穴墓を築造したそれぞれの集団間や集団内においても階層差は存在していたと思われます。

古墳の埋葬施設や墳丘などは、本来階層差をあらわしているものですが、群集墳の場合それらの要素に大きな違いが見られず、むしろ副葬品の内容にこそ差異を認めることができます。畿内よりもたらされたと考えられる文物は、それらを入手した被葬者集団とヤマト王権との関係を示すものであり、そこに地域間もしくは集団間における階層差の存在というものが認められます。

27. 重層ガラス玉
（茅ヶ崎市臼久保横穴墓群）

26. 畿内からもたらされた土器
上：須恵器瓹（はそう）
（川崎市中原区井田伊勢宮金堀横穴墓群）川崎市教育委員会所蔵
下：土師器坏（つき）
（左：中郡大磯町下田横穴墓群）
大磯町郷土資料館所蔵
（右：小田原市弁天山横穴墓群）
小田原市教育委員会所蔵

3）埋葬方法と埋葬儀礼

古墳への埋葬は、横穴式墓室の導入により追葬による複数埋葬が可能となりましたが、狭い墓室の中にすべての被葬者が順次伸展で埋葬されたとは限らないようです。墓室より出土した人骨の状況からは、新たな被葬者を追葬するために埋葬後骨化したものを寄せ集めたり（かたづけ・集骨）、別の場所へと移動（改葬）した形跡も見られます。

副葬品や土器などの出土位置や人骨の配置された状況からは、古墳に埋葬された当時の様子や手順などが想定できるものや、埋葬に伴う儀礼の行われた状態を示していると考えられるものもあります。

古墳から出土する土器については、横穴式の墓室とともに導入された埋葬に伴う儀礼において使用されたものであり、多くは飲食等に関わる行為が行われたと推測されます。中には意図的に打ち欠いたり、底部や胴部などに穴のあけられているもの、土器の内部で火をたいた痕跡が残るものもあります。これらは、各古墳で共通した埋葬儀礼が行われていた証です。

その他、副葬品の中にも、鞘から抜いた刀を墓室の壁面に立て掛けたり、わざわざ分解（破壊）している例なども見られ、副葬よりもむしろ埋葬に関わる儀礼行為の一つとして認識できます。

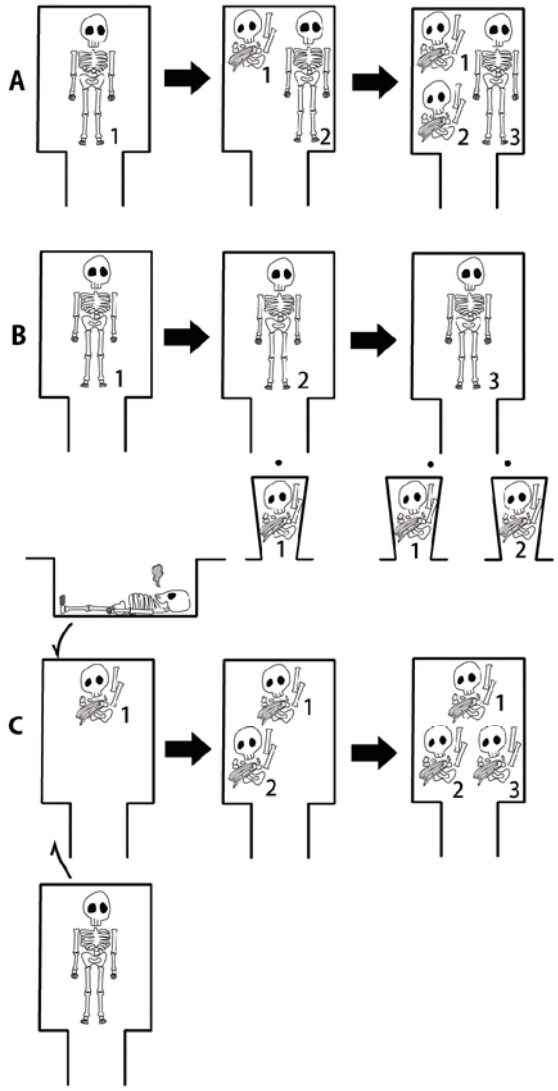
28. 埋葬人骨の集骨状況（東京都北区赤羽台横穴墓群）

29. 埋葬儀礼に使用された土器
（横浜市青葉区熊ヶ谷横穴墓群）

30. 埋葬儀礼に使用された土器
（伊勢原市上栗原横穴墓群）伊勢原市教育委員会所蔵

31. 奥壁に立て掛けられた直刀（厚木市林添古墳群）

32. 鍔を壊して刀身に嵌め直した直刀（秦野市桜土手古墳群）



33. 横穴墓における埋葬方法のパターン

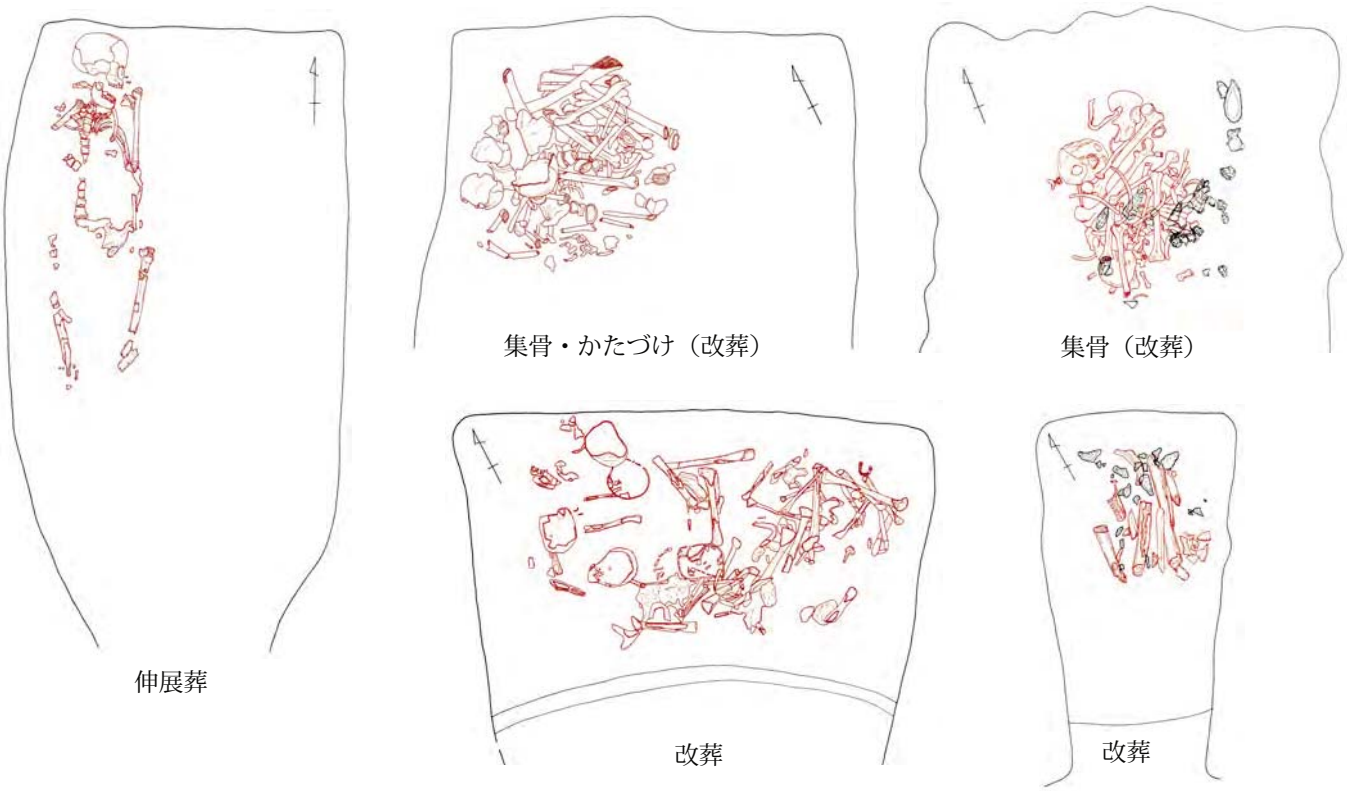
コラム　横穴式墓室と葬法

横穴式の墓室への埋葬については、遺（のこ）された人骨の配置状態から想定・復元することができます。

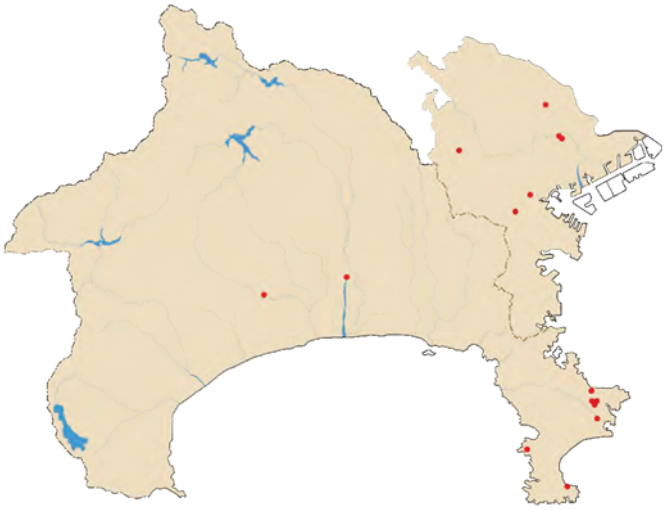
埋葬形態は、「仰臥（ぎょうが）伸展葬」と呼ばれる、遺体を仰向（あおむ）けに寝かせた形を基本としています。墓室の入口と奥壁を結んだ軸に平行して埋葬したものと直交する形に埋葬した事例が見られますが、これらの向きの違いについては埋葬時に墓室の形や規模により制限された可能性もあります。また、複数の遺体が埋葬される場合、頭を同じ向きに揃えるものと互い違いになる向きに置いているものが見られます。そこには被葬者の性別や被葬者間における関係が反映していた可能性もありますが、その規則性については明らかではありません。

同じ墓室内に複数の遺体を埋葬する行為を「追葬」と呼びますが、墓室の形や規模からすれば埋葬が可能な数も当然制限されることになります。そこで追葬を行うためのスペースを確保する方策として、先に埋葬した遺体を傍らに動かしたり（かたづけ）、寄せ集めたり（集骨）しています。

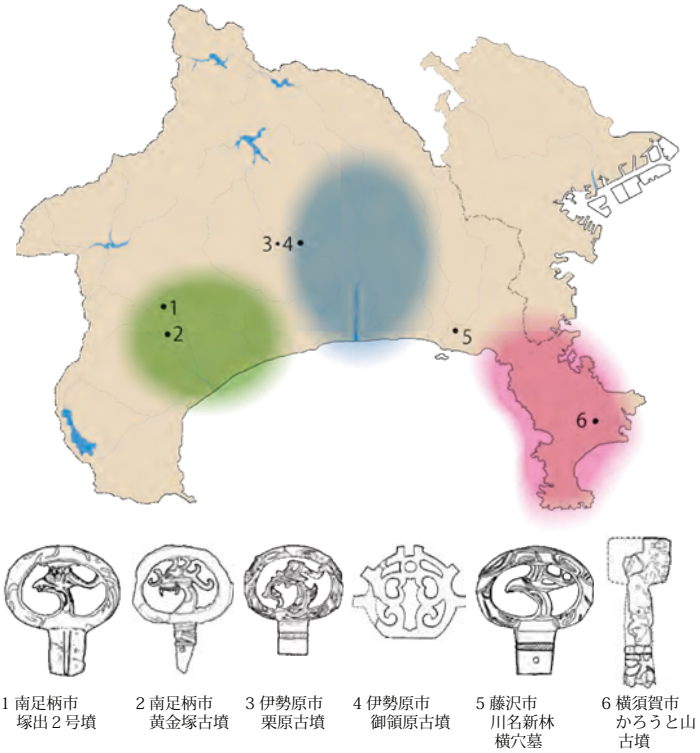
「改葬」は、一度骨化させた遺体を改めて別の場所に埋葬するものです。墓室の規模からは、明らかに伸展葬を行うことが困難な小型のものが存在しており、おそらくは改葬を前提として構築されたもの（改葬墓）と考えられます。また、追葬のためのスペースを確保する行為としても改葬が行われた可能性が指摘できます。



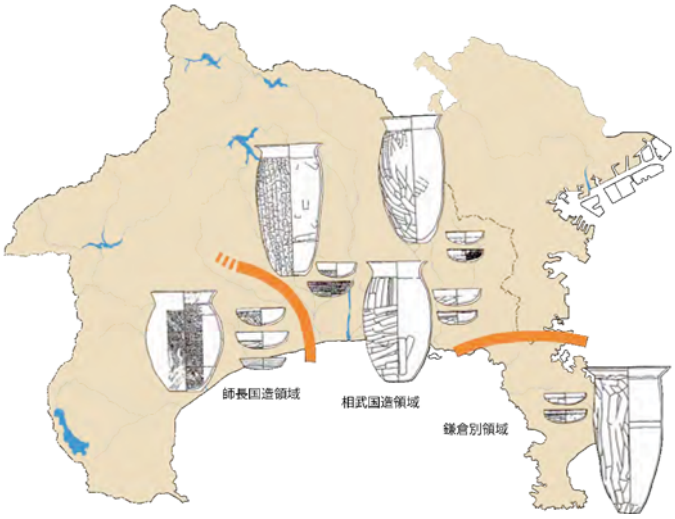
34. 人骨の出土状況からみた横穴墓における埋葬方法の事例（東京都北区赤羽台横穴墓群）



35. かながわの後期前方後円墳の分布



36. 相模地域における国造領域と威信財の分布



37. 相模地域における古墳時代後期の土器様相

Ⅲ　群集墳の諸相

現在の神奈川県の範囲は、７世紀の終わり頃に成立した律令制下の旧国である相模国と武蔵国の一部に該当しています。群集墳が造られた古墳時代後期・終末期には、ヤマト王権による国造制という間接支配が行われる中で、前者が「師長国造」「相武国造」「鎌倉別」の三つの勢力により支配されていた領域、後者が「武蔵国造」により支配されていた領域の一部と考えられています。

各領域では、６世紀末頃に見られる前方後円墳の築造停止に連動する形で、上位ランクの副葬品を出土する高塚古墳（円墳が主体となるもの）が登場し、権威の象徴が墳墓の規模・形態から威信財を主体とした副葬品へと変化していく状況が認められます。

コラム　古墳時代終末期のかながわ

６世紀末頃と言われる東日本における国造制の成立は、前方後円墳の築造が終わるのとほぼ重なる動きです。この時期には畿内系の文物を副葬品にもつ古墳が在地の首長墓として登場するようになります。

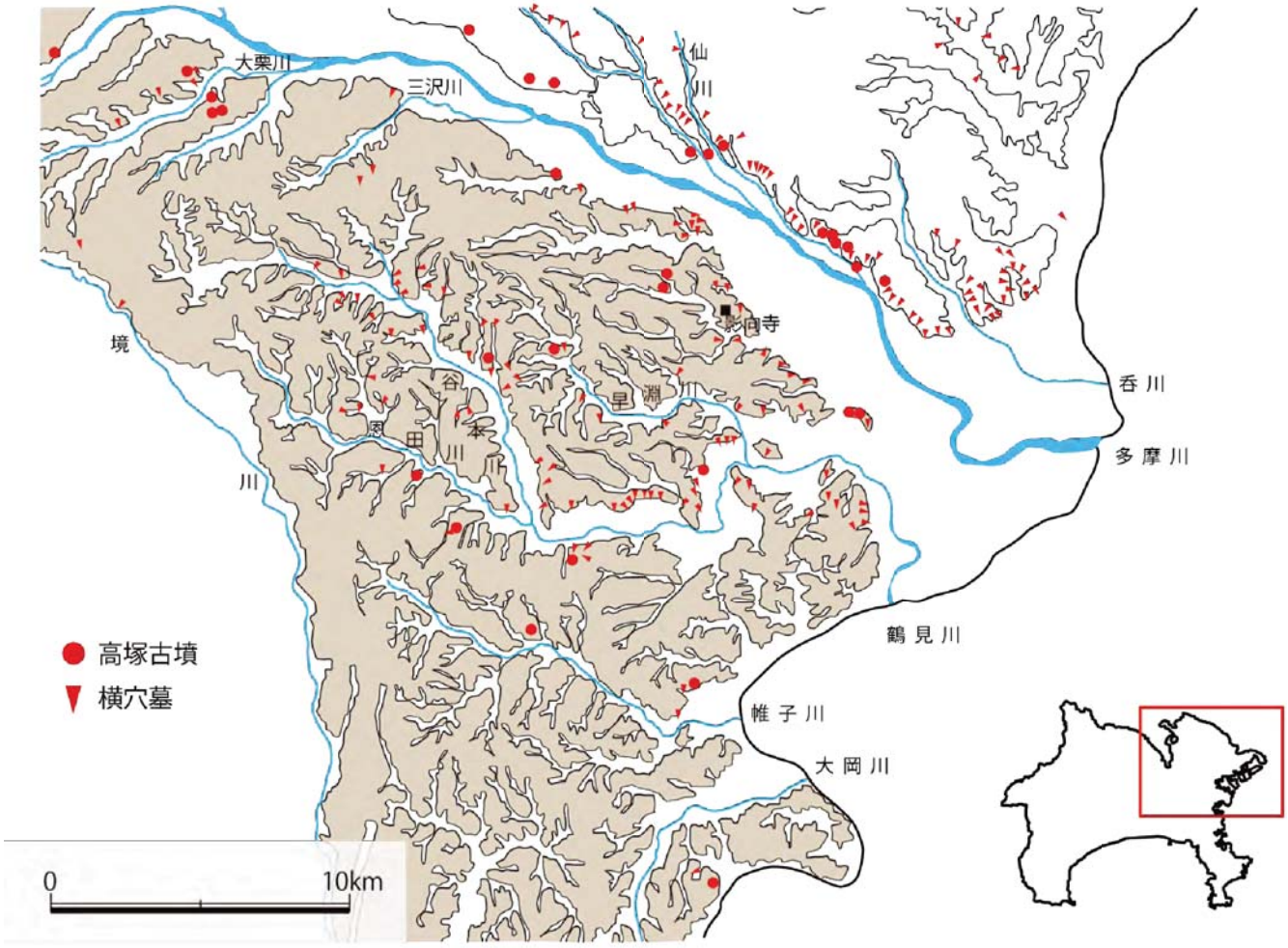
かながわの旧武蔵国の一部に当たる（「武蔵国造」の支配領域の一部と想定される）地域では、装飾付大刀の中でも環頭大刀の出土が認められず、相模地域の様相とは異なり、地域を統括するような首長の存在は見えてきません。武蔵国造の乱の後にこの地域が屯倉として献上されたという『日本書紀』の記事からは、ヤマト王権との支配関係がその背景にあるようにも思われます。

旧相模国の範囲に当たる地域では、県西部の酒匂川流域を中心とする一帯が「師長国造」の支配領域、県央部の相模川流域を中心とする一帯が「相武国造」の支配領域、鎌倉から三浦半島にかけての一帯が「鎌倉別」の支配領域に想定されています。環頭大刀などの威信財を副葬する高塚古墳の存在から、県西部では足柄平野の西縁部付近が師長国造の本拠地、県央部では比々多・三ノ宮付近が相武国造の本拠地として考えられます。鎌倉・三浦半島地域では、鎌倉別の本拠地がどこであったのか現在のところ明らかではありません。

なお、相模地域における各領域については、当時使用されていた土器の示す様相からおおよその範囲を比定できることが指摘されています。

1）南武蔵地域の様相

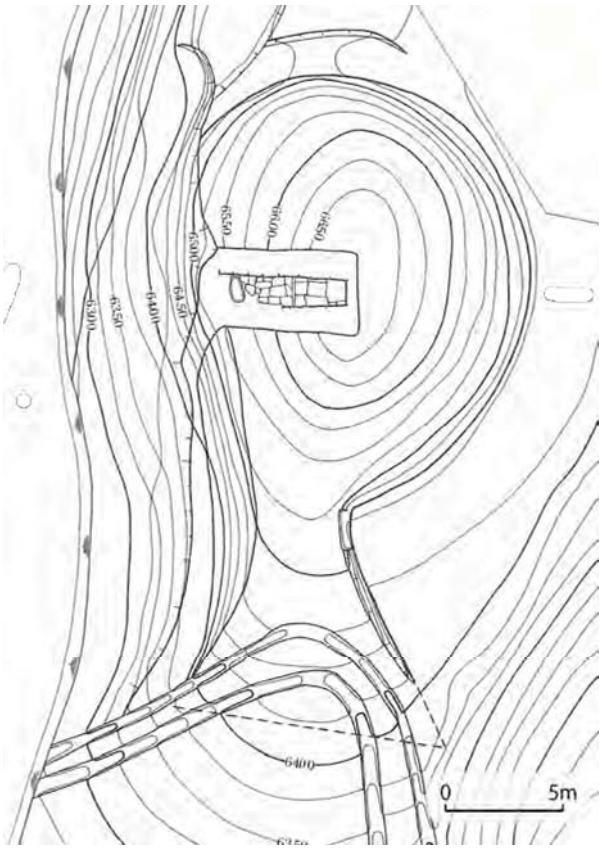
古墳時代後期・終末期の南武蔵地域のうち、現在の神奈川県に含まれる範囲では、鶴見川流域及び帷子川流域において後期の前方後円墳の存在が確認されるほか、高塚古墳が横穴墓のように群集する様相はほとんど認められません。６世紀末以降に築造が始まる高塚古墳と横穴墓の分布については川崎市及び横浜市北部に集中しており、横浜市南部は希薄となる状況が見られます。分布の集中する多摩川下流域右岸・鶴見川流域では、一見すると両者が入り混じったモザイク状にも見えますが、横穴墓が広範囲に数多く分布しているのに対し、高塚古墳は一定の間隔をもって点在しており、それぞれの高塚古墳の被葬者（もしくは造営した集団）が影響力を持っていた範囲（小地域）を示しているようでもあります。横穴墓は、高塚古墳に従属する（統括される）かのように、その周辺へと墓域を展開しており、これら小地域の中でも横穴墓の分布に粗密が見られるのは、地区における造墓集団の多寡を反映しているものと考えられます。



38. 南武蔵地域（かながわ）における古墳時代後期・終末期の高塚古墳・横穴墓の分布

a）南武蔵地域における最後の前方後円墳

本地域の古墳時代後期に展開する前方後円墳の多くから埴輪の出土が認められますが、横浜市西区軽井沢古墳は、前方部が短い帆立貝型の墳形であるとともに埴輪を伴わないことから、前方後円墳の最後の姿を示しているものと思われます。一方、横浜市緑区北門古墳群などは、円墳ながら多くの形象埴輪を出土しており、その様相は軽井沢古墳と対照的です。また、横浜市緑区三保杉沢古墳も、前方後円形の墳形と埴輪を伴うことを除けば、後期・終末期の円墳を主体とする高塚古墳と比較しても、石室や副葬品の内容に違いは見られません。



40. 横浜市西区軽井沢古墳全景（上）
直刀・刀子（とうす）・鍔・須恵器提瓶（ていへい）（下）
横浜市歴史博物館所蔵

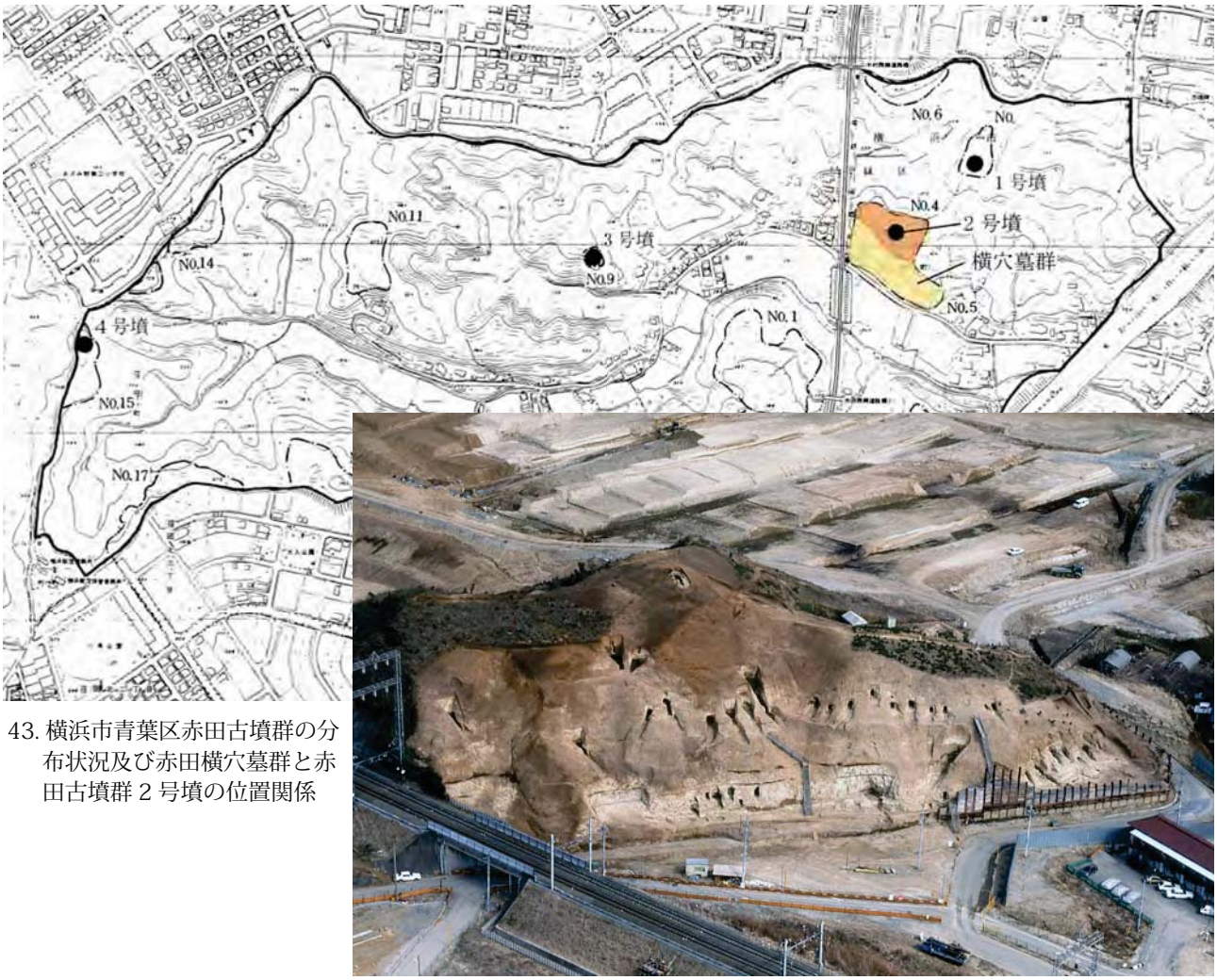
39. 横浜市緑区三保杉沢古墳測量図（上）
形象埴輪片（下）
横浜市埋蔵文化財センター所蔵

41. 人物埴輪（横浜市緑区北門古墳群）　横浜市歴史博物館所蔵　横浜市指定文化財

b）南武蔵地域における後期・終末期の高塚古墳

本地域の高塚古墳については、横穴墓のように群集する形態をとらずに、単独ないし数基単位で台地や丘陵の尾根上に築造している状況が見られます。川崎市麻生区下麻生（しもあそう）古墳群などは、短期間のうちに一つの墓域内に継続して古墳が築造された結果、群が形成されたものであり、また横浜市青葉区赤田（あかだ）古墳群などは、近接する台地の尾根上にそれぞれ単独で古墳を築造しています。なお、赤田古墳群２号墳の造られた台地の南側斜面には多数の横穴墓（赤田横穴墓群）が墓域を形成しており、この配置は両者の関係性を明示しているものと考えられます。

42. 川崎市麻生区下麻生古墳群測量図、１号墳切石積横穴式石室全景、土師器坏・刀装具　川崎市教育委員会所蔵



43. 横浜市青葉区赤田古墳群の分布状況及び赤田横穴墓群と赤田古墳群２号墳の位置関係

44. 横浜市青葉区赤田古墳群１号墳全景・２号墳切石積横穴式石室全景、土器類・鍔・装身具類　日本窯業史研究所保管

c）南武蔵地域における後期・終末期の横穴墓

本地域の横穴墓は、多摩川下流域右岸及び鶴見川流域において濃密な分布を示しています。群を形成する横穴墓の中には、高塚古墳との関係性をうかがわせる墓域の配置も見られます。

一方、本地域では「威信財」と呼ばれる副葬品の大半は横穴墓から出土しており、川崎市高津区日向（ひなた）横穴墓群や同区浄元寺（じょうげんじ）裏横穴墓群からは銅鋺が、また象嵌（ぞうがん）の装飾付大刀を副葬している横穴墓もいくつか見られます。そのほか、挂甲（けいこう）の札板（さねいた）（小札（こざね））や馬具などを出土している横穴墓も認められます。

45. 須恵器甕・高坏・短頸壺・坏（川崎市高津区久本横穴墓群）　川崎市教育委員会所蔵

46. 象嵌大刀（川崎市高津区久本横穴墓群）　川崎市教育委員会所蔵

47. 象嵌大刀（川崎市高津区溝口西横穴墓群）
川崎市教育委員会所蔵

48. 象嵌大刀（川崎市高津区久地西前田横穴墓群）
川崎市教育委員会所蔵

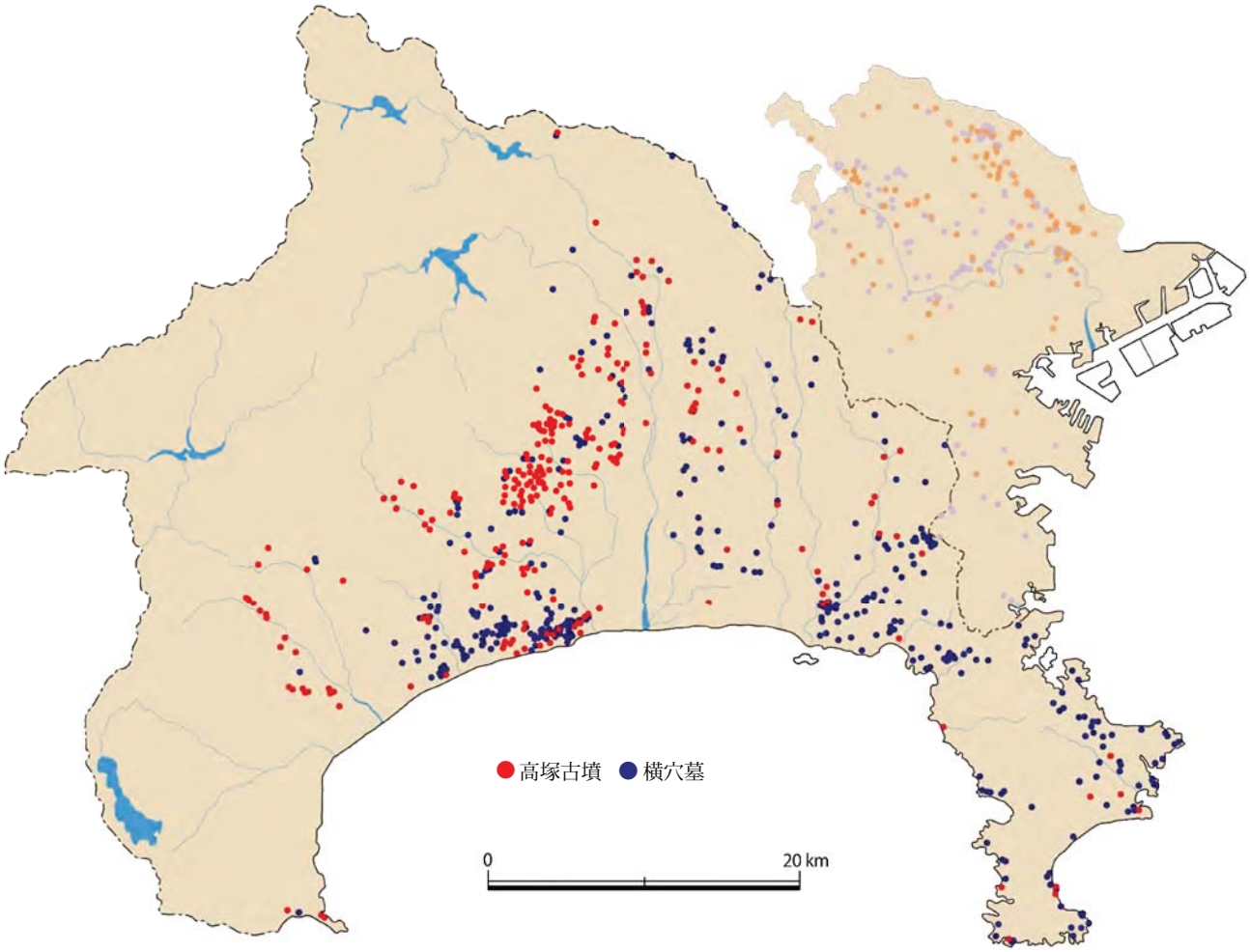
49. 装身具：玉（川崎市高津区久本横穴墓群）
川崎市教育委員会所蔵

50. 銅鋺・人物埴輪頭部（川崎市高津区日向横穴墓群）　川崎市教育委員会所蔵

2）相模地域の様相

相模地域における古墳時代後期・終末期では、金目川流域、相模川東岸、三浦半島地域で後期の前方後円墳が点在するほか、後続する６世紀末以降の群集墳（高塚古墳と横穴墓）の分布については各地域によって様相を異にしています。まず、県西部（師長国造の領域）における分布状況は、足柄平野の西部と久野丘陵に高塚古墳、大磯丘陵には横穴墓、そして秦野盆地には高塚古墳、その周辺には高塚古墳と横穴墓がそれぞれ墓域を違えて見られます。次に、県央部（相武国造の領域）では相模川右岸の丘陵部を中心に群集を見せる高塚古墳に横穴墓が混在している状況を示しており、対する相模川左岸の河川流域では逆に横穴墓が分布の主体となっています。そして、鎌倉から三浦半島にかけての一帯（鎌倉別の領域）には、海岸沿いに横穴墓が圧倒的多数をもって分布している様相が窺えます。

相模地域における高塚古墳と横穴墓の関係は、それぞれが優越して存在する地域が認められるなど、各領域の中でもバラエティーに富んだ様相を示しています。

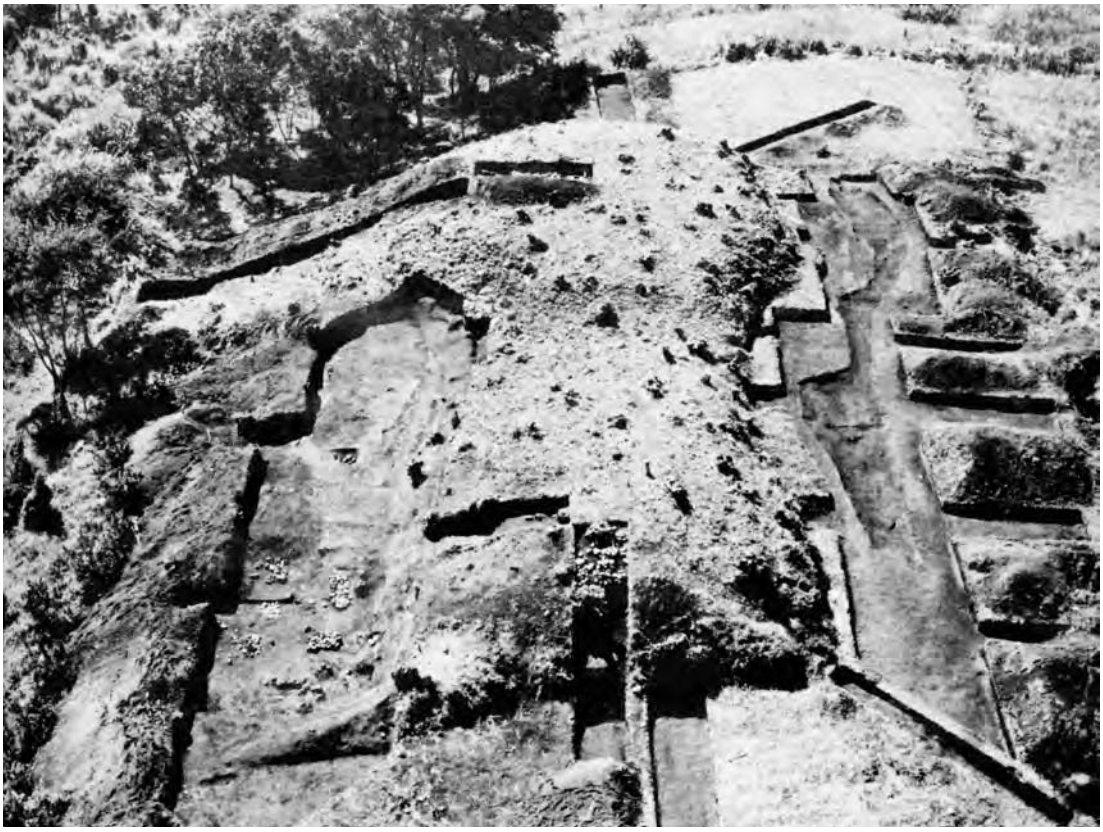


51. 相模地域における古墳時代後期・終末期の高塚古墳・横穴墓の分布

a）相模地域における最後の前方後円墳

本地域の古墳時代後期に展開する前方後円墳は、いまだ様相が明らかでない地域もありますが、師長国造の本拠地と目される足柄平野西縁部（南足柄市）及び相武国造の本拠地に比定される比々多・三ノ宮付近（伊勢原市）においては、その存在が認められていません。また、竪穴系の埋葬施設をもつ相模川東岸及び三浦半島に分布する後期の前方後円墳については、一部の古墳を除き埴輪を伴わず、南武蔵地域とは様相を異にしています。一方、師長と相武の領域境付近に位置

する秦野市二子塚古墳は埋葬施設に自然石積横穴式石室をもつ前方後円墳であり、やはり埴輪は出土していませんが、威信財である銀装の圭頭大刀を副葬しているという点で注目されます。

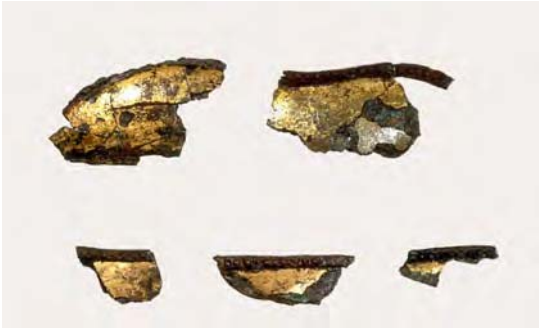


52. 秦野市二子塚古墳（神奈川県指定史跡）調査状況、銀装圭頭大刀（秦野市指定文化財）出土状況

b）相模地域（県西部）における後期・終末期の高塚古墳と横穴墓

師長国造の領域と考えられる県西部においては、高塚古墳と横穴墓の存在する地域が比較的明瞭に区分できます。酒匂川西岸では高塚古墳が多数を占め、東岸から大磯丘陵にかけては横穴墓が数的に優位となります。また、秦野盆地内には県内屈指の高塚群集墳である桜土手古墳群が存在しています。これらの高塚古墳・横穴墓からは威信財を副葬する事例が多く見られ、南足柄市塚田２号墳や同市岩原黄金塚古墳出土の環頭大刀を始めとする装飾付大刀のほか、金銅装馬具（塚田２号墳、秦野市桜土手古墳群、平塚市高根横穴墓群、中郡大磯町坂田山南横穴墓群、同郡二宮町諏訪脇横穴墓群）や銅鏡（中郡大磯町下田横穴墓群）・銅鋺（小田原市総世寺裏古墳）・銅匙（中郡大磯町釜口古墳）なども出土しています。

53. 秦野市桜土手古墳群１号墳全景、25 号墳出土象嵌鍔、38 号墳出土馬具　秦野市教育委員会所蔵



54. 南足柄市塚田古墳群２号墳出土品
長福寺所蔵　南足柄市指定文化財

55. 環頭大刀柄頭（南足柄市岩原黄金塚古墳）
米倉一氏所蔵

56. 小田原市総世寺裏古墳石室全景、トンボ玉

57. 装飾付大刀（小田原市久野２号墳）　小田原市教育委員会所蔵

58. 小田原市天神山１号墳石室全景
出土品　小田原市教育委員会所蔵

副葬品に威信財をもつ古墳・横穴墓の分布状況からは、師長国造の勢力が、時期によって本拠地を移動させていた可能性が指摘されています。すなわち、６世紀後半から末頃にかけては、足柄平野西縁部（南足柄市）に存在していた勢力が、７世紀に入ると小田原市北部の久野丘陵から小田原市南部の天神山丘陵にかけての地域に移動する様相が窺えます。一方、７世紀の前半代には大磯丘陵を始めとする酒匂川東岸の地域に多数の横穴墓が出現し、副葬品の内容からは高塚古墳より出土するものと比べても遜色（そんしょく）がなく、この時期における新興勢力の台頭という事象が想定されます。

59. 馬具（平塚市城山横穴墓群）　平塚市教育委員会所蔵

60. 金銅製杏葉（ぎょうよう）（中郡大磯町坂田山南横穴墓群）
大磯町郷土資料館所蔵

61. 刀装具・帯留金具（中郡二宮町諏訪脇横穴墓群）　東京大学所蔵

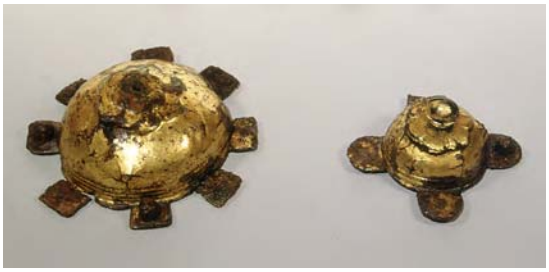
62. 平塚市万田熊之台横穴墓群

c）相模地域（県央部）における後期・終末期の高塚古墳と横穴墓

相武国造の領域に比定される県央部においては、相模川西岸域で高塚古墳と横穴墓の混在する状況が認められるものの、数的には高塚古墳の存在が優位であることが窺えます。対する東岸域では、昨今の調査で相模川沿いの低地部分にも高塚古墳の存在が確認され始めましたが、横穴墓が多数を占める状況に変わりはありません。西岸域は相武国造の本拠地と目される伊勢原市比々多・三ノ宮付近の高塚古墳を中心に装飾付（環頭）大刀を始めとする威信財の出土が見られますが、東岸でも境川下流域に横穴墓が密集している藤沢市川名新林（かわなしんぼやし）地区の横穴墓から環頭大刀が出土しています。

その他、海老名市本郷（ほんごう）遺跡出土の環頭大刀柄頭（つかがしら）の破片からは、本来これが副葬されていたであろう古墳ないし横穴墓が近隣に存在していた可能性も考えられます。

63. 環頭大刀柄頭（伊勢原市栗原古墳）
比々多神社所蔵　伊勢原市指定文化財

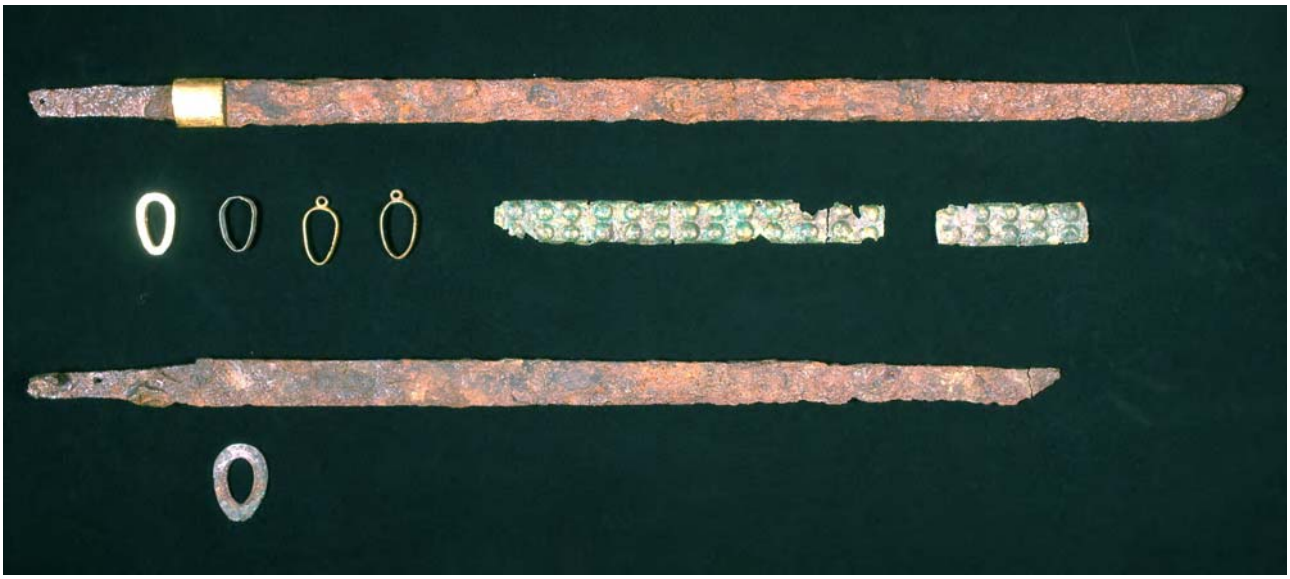


64. 伊勢原市登尾山古墳出土品　比々多神社所蔵　伊勢原市指定文化財

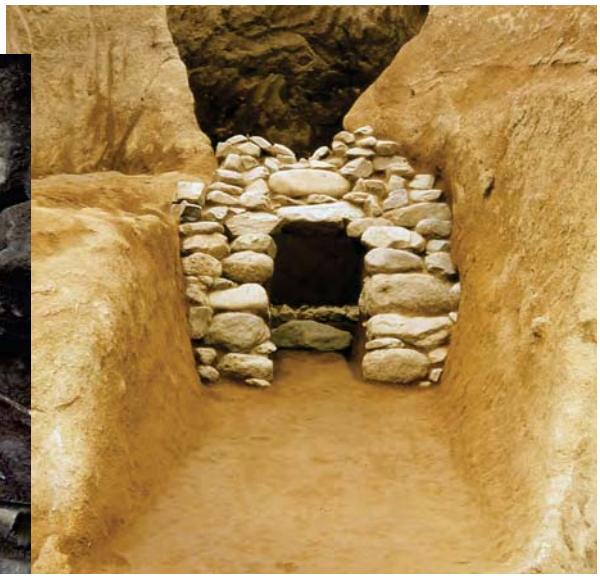
65. 伊勢原市らちめん古墳出土品　比々多神社所蔵　伊勢原市指定文化財

このように、県央部の相模川西岸に位置する比々多・三ノ宮地区の古墳から、環頭大刀や金銅装の馬具などを始めとする多くの威信財が出土している状況は、相武国造の本拠地がこの地に存在していたであろうことを容易に推測させるものと言えます。

一方、相模川東岸の藤沢市川名地区や海老名市域の遺跡から環頭大刀やその破片が出土していることからは、これをもって相模川西岸地域に対抗する勢力が存在した（もしくは一時的にでも相模川西岸から東岸へと勢力が移動した）と考えるよりも、むしろそこには、後に官道（東海道や東山道（とうさんどう））として整備されていく交通路の要衝（ようしょう）となる地域に存在する勢力を、威信財の配布により個別に掌握（支配）しようとしていたヤマト王権の姿が垣間見えてくるようにも思われるのです。



66. 装飾付大刀および鉄製大刀（伊勢原市日向・渋田１号墳）　伊勢原市教育委員会所蔵



67. 伊勢原市三ノ宮・下尾崎横穴墓群
第 1 号墓遺物出土状況、第 19 号墓、
馬具　伊勢原市教育委員会所蔵

68. 馬具（伊勢原市三ノ宮・上栗原横穴墓群）　伊勢原市教育委員会所蔵

伊勢原市三ノ宮・下尾崎横穴墓群や上栗原横穴墓群から出土した馬具のように、かながわの 7 世紀代に造営された横穴墓からは、他地域において首長墓クラスの古墳に副葬されるような優品の出土も見られます。その反面、この時期の馬具の多くは、馬装（馬具のセット）で副葬されている状況をほとんど見ることができません。これは本来保有していたものが追葬や盗掘等により散逸してしまった場合もあると思われますが、一方ではセットとしての馬具でなく、その一部を威信財として保有していたのかもしれません。

69. 環頭大刀柄頭（藤沢市川名新林右横穴墓群）
藤沢市所蔵　藤沢市指定文化財

70. 環頭大刀柄頭破片（海老名市本郷遺跡）と想定復元図
海老名市教育委員会所蔵

71. 藤沢市代官山横穴墓群全景、装身具

72. 象嵌鍔（厚木市林添古墳群）
厚木市教育委員会所蔵

73. 鈴釧（すずくしろ）（厚木市衣紋原古墳群）
厚木市教育委員会所蔵

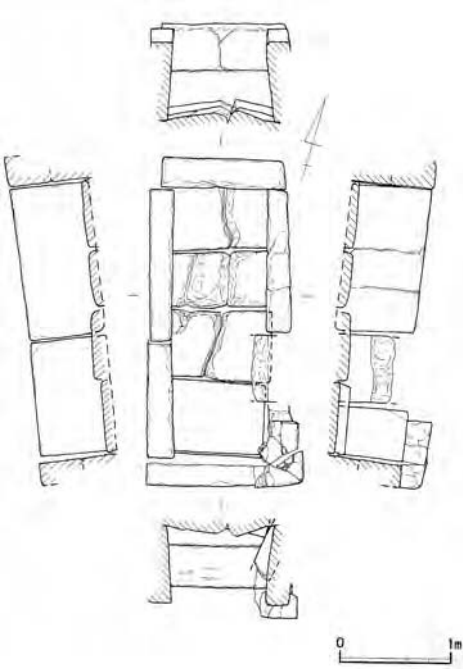
74. 相模原市中央区谷原古墳群 12 号墳全景、鉄製大刀・玉　相模原市立博物館所蔵

d）相模地域（鎌倉～三浦半島）における後期・終末期の高塚古墳と横穴墓

鎌倉別の領域とされる鎌倉～三浦半島にかけての範囲においては、横穴墓が圧倒的に多数を占め、他地域で見られるような後期・終末期に属する高塚古墳の存在はほとんど認められません。中でも横須賀市かろうと山古墳は、同地域における数少ない高塚古墳の一つですが、箱式石棺を埋葬施設に持ち、副葬品に金銅製の弭金具や金銀装斧状鉄製品など特異な威信財を副葬しています。本地域では威信財とされる副葬品の大半が沿岸部に展開する横穴墓から出土しており、装飾付大刀のほか銅鏡や銅鋺（横須賀市鳥ヶ崎横穴墓群）・金銅装馬具（鎌倉市岩瀬上耕地横穴墓群）・金銅製弭金具（三浦市江奈横穴墓群）なども見られます。

75. 鎌倉市岩瀬上耕地横穴墓群全景

76. 馬具（横須賀市長浜横穴墓群）　横須賀市自然・人文博物館所蔵



78. 箱式石棺（横須賀市かろうと山古墳）測量図
出土品　横須賀市自然・人文博物館所蔵

77. 金銅製空玉（横須賀市長浜横穴墓群）
玉泉史郎氏所蔵

79. 象嵌大刀（逗子市久木五丁目横穴墓群）
逗子市教育委員会所蔵

Ⅳ　群集墳の終焉

前方後円墳の築造停止に呼応するかのように爆発的に造られ始めた小規模な古墳（横穴墓）の群集する現象は、古墳に埋葬されることが可能となった階層の増加とヤマト王権による地域支配構造の変化という二面性を併せ持ったものでした。

律令制へと移行していく過程において、古墳の持つ社会的な役割（ステイタス）は、新たな形へと変わっていく一方で、そこには伝統的な墓造りにこだわり続けた人びとの姿も見えてきます。

80. 横浜市磯子区森浅間山横穴墓群・人骨埋葬状況

81. 小石室（伊勢原市三ノ宮古墳群）

82. 火葬骨埋納状況（平塚市万田熊之台横穴墓群）

１）造墓（ぞうぼ）の停止と造営の継続

かながわを含む東日本では、７世紀中葉頃に迎えた群集墳築造のピークを過ぎると新たに造られる古墳の数は減っていきます。造墓数の減少は、そこにある種の規制が存在したためと考えられますが、これは７世紀中葉頃のヤマト王権の動きに連動する形で生じた現象と思われます。また、この頃新たに造られた墓の中には墓室の大きさからしても伸展で埋葬することが難しく、明らかに改葬による人骨を納めているものや、中には火葬した人骨を墓室に埋納しているものも認められます。一方、新たな造墓が減少する中でも、これまでに造られた（使用されていた）墓室内への埋葬については継続して行われていたようです。古墳から８世紀以降の土器だけが出土する場合は、その土器の年代をもとに築造時期を比定している例も見られますが、造墓自体はおそらく７世紀代で終焉を迎えていたと想定されることから、そこでは墓を利用（造営）する行為のみが継続して行われていたと考えられます。

７世紀後半代に見られる改葬や火葬を前提とした、従来の葬法と異なる埋葬様式への変化は、人びとの葬送に対する観念にも大きな影響を与えたと思われます。また、この変化は、伝統的な墓制のあり方をも変えていくものでした。

2）律令制成立前夜のかながわ

「相模国」の名は、『日本書紀』天武（てんむ）四年（675）の条に初めて登場し、同天武十三年 (684) の条には「武蔵国」の名前を見ることができます。７世紀第４四半期～８世紀前半にかけては、各郡（評（こおり））単位で寺院が建立され、地域支配のシンボルが古墳から寺院へと替わっていく動きが見られます。かながわでも、この時期にはいくつかの寺院が建立されており、畿内からの文物の流入に伴い整備された交通路沿いに認められます。

７世紀中葉以降、群集墳の新たな築造は減少していきますが、最終的な終焉に至る過程については、一様でなかったことが想定されます。かながわを含む東日本では、７世紀後半以降も墓の利用（造営）が行われており、その背景には有力家父長層の拡大化がさらに進み、新たに台頭してきた人たちが、それまでステイタスとされてきた墓の造営という行為に、最後までこだわり続けた結果なのではないかと考えられます。そこでは、それまでの副葬という行為が見られなくなり、土器の使用（儀礼行為）だけは変わらずに確認できます。このように、副葬品自体に価値を見出さなくなった反面、伝統的な埋葬儀礼は引き続き行われていたようです。

やがて、かながわの地でも律令制の浸透とともに、ヤマト王権による地域支配の動きが進むのに合わせ、墓に替わる新たなステイタスが志向されていったのでしょう。

83. 墓前域（ぼぜんいき）土器出土状況（中郡大磯町北中尾横穴墓群）

84. 玄室（げんしつ）内土器出土状況（中郡大磯町北中尾横穴墓群）

85. 玄室内遺物出土状況（横須賀市高尾横穴墓群）、出土品

86. 火葬骨蔵器・刀子柄（川崎市多摩区生田古墓群）
川崎市教育委員会所蔵　川崎市重要歴史記念物

87. 火葬骨蔵器・銭貨（川崎市宮前区稗原古墓群）
川崎市教育委員会所蔵　川崎市重要歴史記念物

88. かながわにおける古代交通路と寺院・官衙

挿図の出典および写真の提供

本冊子に掲載した挿図の出典および写真の提供先については、神奈川県教育委員会所蔵のものは略しました。

（写真）

１・４・11・32・52・53：秦野市教育委員会提供、表紙・５・30・63 ～ 68：伊勢原市教育委員会提供
12・43・44：日本窯業史研究所提供、14・75：鎌倉市教育委員会提供、17・74：相模原市立博物館提供
18：横須賀市自然・人文博物館提供、表紙・20・23・26・54・55・59・60・62・82：平塚市博物館提供
21・26・42・45 ～ 50・86・87：川崎市教育委員会提供、22：川崎市市民ミュージアム提供
24・31・72・73：厚木市教育委員会提供、28：東京都北区教育委員会（飛鳥山博物館）提供、40：横浜市教育委員会提供
39 ～ 41・44：横浜市歴史博物館提供、57：小田原市教育委員会提供、表紙・58・74：玉川文化財研究所提供
69：藤沢市郷土歴史課提供、70：海老名市教育委員会提供、79：逗子市教育委員会提供、83・84：大磯町郷土資料館提供

（挿図）

３：文献１掲載図を一部改変、６：文献２掲載図を改変、７：文献３掲載図を一部改変、８：文献４掲載図を一部改変
13：文献１より転載、16：文献５より転載、19：文献６掲載図を一部改変、25：文献７掲載図を一部改変
33：文献８掲載図を一部改変、34：文献９掲載図を再構成、36：文献 10 掲載図を一部改変、37：文献 11 掲載図を転載
38：文献 12 掲載図を一部改変、39：文献 13 掲載図を転載、42：文献 14 掲載図を転載、43：文献 15 掲載図を転載
51：文献 16 掲載図を改変、70：文献 17 掲載図を転載、78：文献 18 掲載図を一部改変、88：文献 19 掲載図を一部改変

挿図引用文献

1. 北区飛鳥山博物館　2004『赤羽台の横穴墓－古代人と葬送習俗－』
2. 神奈川県立埋蔵文化財センター　1990『横穴墓の謎－神奈川県下の横穴墓を中心として－』
3. 若狭　徹　2017『前方後円墳と東国社会』古代の東国１　吉川弘文館
4. 柏木善治　2012「相模の後・終末期における古墳・横穴墓の展開」『武蔵・相模の後期古墳－その地域性と交流をさぐる－』平成 23 年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー
5. 桜土手古墳群発掘調査団　1989『神奈川県秦野市桜土手古墳群の調査』
6. 新納　泉　1983「装飾付大刀と古墳時代後期の兵制」『考古学研究』第 30 巻第３号　考古学研究会
7. 柏木善治　2008「副葬大刀からみた相模の地域像」『神奈川考古』第 44 号　神奈川考古同人会
8. 池上　悟　1998「山陰横穴墓の埋葬様式」『多知波奈考古』第４号　多知波奈考古学会（池上 2000『日本の横穴墓』雄山閣出版　所収）
9. 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会　1989『赤羽台遺跡－赤羽台横穴墓群－』
10. 田尾誠敏　2014「藤沢の古墳時代社会」『大地に刻まれた藤沢の歴史』Ⅳ～古墳時代～　藤沢市
11. 田尾誠敏　2007「古墳時代後期 集落と古墳」『大磯町史』10　別編考古　大磯町
12. 大西雅也　2012「南武蔵・多摩丘陵における横穴墓の様相」『武蔵・相模の後期古墳－その地域性と交流をさぐる－』平成 23 年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー
13. 日本窯業史研究所　1979『三保杉沢遺跡群』日本窯業史研究所報告第９冊
14. 下麻生古墳群発掘調査団　2016『下麻生古墳群』
15. 日本窯業史研究所　1990『赤田の古墳』日本窯業史研究所報告第 34 冊
16. 明石　新　2001「相武国から相模国へ」『相模国の古墳－相模川流域の古墳時代－』平塚市博物館
17. 穴沢咏光・馬目順一　1988「金銅装単鳳環頭大刀の把頭破片」『海老名本郷』Ⅱ　本郷遺跡調査団
18. 稲村　繁　2005「かろうと山古墳の発掘調査」『市史研究　横須賀』第４号　横須賀市
19. 木本雅康　2006「相模国の古代東海道」『復元！古代都市平塚～相模国府を探る～』ふるさと歴史シンポジウム実行委員会

協力機関・協力者 (順不同、敬称略)

川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、平塚市教育委員会、鎌倉市教育委員会、藤沢市郷土歴史課、小田原市文化財課
逗子市教育委員会、三浦市教育委員会、秦野市生涯学習文化振興課、厚木市教育委員会、大和市文化振興課
伊勢原市教育委員会、海老名市教育委員会、座間市教育委員会、南足柄市文化スポーツ課
公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター、川崎市市民ミュージアム、相模原市立博物館
横須賀市自然・人文博物館、平塚市博物館、茅ヶ崎市文化資料館、南足柄市郷土資料館、大磯町郷土資料館
北区飛鳥山博物館、東京大学、青山学院大学、玉川文化財研究所、日本窯業史研究所、吾妻考古学研究所
長福寺、大厳寺、比々多神社、米倉智子、玉泉史郎、池上　悟、松崎元樹、田尾誠敏、柏木善治

平成 29 年度「かながわの遺跡」展
群集する古墳　～かながわの古墳時代終末期を考える

発行日　平成 29 年 11 月 22 日
編　集　神奈川県教育委員会教育局生涯学習部
　　文化遺産課中村町駐在事務所 (神奈川県埋蔵文化財センター)
発　行　神奈川県教育委員会
印　刷　グランド印刷株式会社